

ヨハネ

シリーズ～弟子道～

2011/4/10

「雷の子」と呼ばれた弟子

- 網元の次男坊であったが、イエス様に従った
 - －「ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、舟の中で網の手入れをしているのを御覧になると、すぐに彼らをお呼びになった。この二人も父ゼベダイを雇い人たちと一緒に舟に残して、イエスの後について行った。」＜マルコ1:19-20＞
- 兄と共にイエス様から「雷の子ら」と呼ばれた
 - －「ゼベダイの子ヤコブとヤコブの兄弟ヨハネ、この二人にはボアネルゲス、すなわち、「雷の子ら」という名を付けられた。」＜マルコ3:17＞
- イエス様を利用して栄達を狙った
 - －「二人は言った。『栄光をお受けになるとき、わたしどもの一人をあなたの右に、もう一人を左に座らせてください。』」＜マルコ10:37＞

イエス様の最も近くにいた弟子

■ ヨハネ福音書の著者

- 「これらのことについて証しをし、それを書いたのは、この弟子(ヨハネ)である。わたしたち(ヨハネの弟子たち)は、彼の証しが真実であることを知っている。」＜21:24＞

■ 最後の晩餐の時、イエス様の隣にいた

- 「イエスのすぐ隣には、弟子たちの一人で、イエスの愛しておられた者が食事の席に着いていた。シモン・ペトロはこの弟子に、だれについて言っておられるのかと尋ねるように合図した。その弟子が、イエスの胸もとに寄りかかったまま、「主よ、それはだれのことですか」と言うと...」
＜13:23-25＞

イエス様の母マリアを引き取った

- ただ一人十字架のもとへ行った勇気ある弟子
- イエス様は母マリアをヨハネに託した
 - 「イエスは、母とそのそばにいる愛する弟子とを見て、母に、「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です」と言われた。それから弟子に言われた。「見なさい。あなたの母です。」そのときから、この弟子はイエスの母を自分の家に引き取った。」 <19:26-7>
- わが子を失ったマリアを慰めると共に、ヨハネに大切なことを教えようとされた

「互いに愛し合いなさい」

- 新約聖書に残る5つの書卷
 - － 福音書・手紙(Ⅰ～Ⅲ)・黙示録
- 愛を説き続けた弟子(「愛」を含む76節！)
 - － 「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」＜3:16＞
 - － 「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。」＜15:13＞
 - － 「愛する者たち、互いに愛し合いましょう。」
＜Ⅰヨハネ4:7＞

「愛しておられた弟子」

- ヨハネ福音書には「ヨハネ」の名はない
 - 「ガリラヤのカナ出身のナタナエル、ゼベダイの子たち、それに、ほかの二人の弟子」<21:2>
- 「愛しておられた弟子」と自らを呼ぶ
 - 「イエスのすぐ隣には、弟子たちの一人で、イエスの愛しておられた者が食事の席に着いていた。」
 - 「イエスは、母とそのそばにいる愛する弟子とを見て…」<19:26>
 - 「また、イエスが愛しておられたもう一人の弟子のところへ走って行って彼らに告げた。」<20:2>

イエス様の教育

- 弟子の個性・長所短所を見抜いておられる
- 言葉よりも体験・生活を通して教えられる
- 愛されていること、愛することの大切さを、自らの命をかけて教えられた
 - －『自分のような者さえ愛して下さった』という表現
 - － 愛とは人を生かし、人と関わる力
 - － ヨハネはマリアを引き取ることにより、愛されること、愛することの大切さをより深く学んだ